

令和4年度

# 運営に関する計画 最終評価

大阪市立北中道小学校

## 大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

### 1 学校運営の中期目標

#### 現状と課題

本校は「明るく仲よく正しく生きる子、心身ともに健康でねばり強くがんばる子、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を持ち、個性と創造力豊かな子」という教育目標のもとに、令和3年度からめざす子ども像を「仲間と認め合い自らよりよく学ぶ子ども」とし、安全・安心な教育の推進と未来を切り拓く学力・体力の向上、学びを支える教育環境の充実をめざし、多様な教育活動を推進している。

安心・安全な教育の推進については、道徳性・社会性の育成に努めてきた。そこでは、多文化共生教育や特別活動に重点を置き人権を尊重する教育に取り組んだ。民族学級や国際理解教育の推進、異学年交流の推進、防災訓練など地域と連携した教育活動の工夫など進めて、互いのよさと違いを認め尊重し合う態度の育成を図った。その結果、「友だちを大切に、助け合っている」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は90%以上の児童が肯定的回答をした。今後も、友だちを大切に、助け合える子どもを育成していくことに重点を置きたい。また、「自分にはよいところがある」では、校内アンケートにおいて令和3年度末は80%の児童が肯定的な回答をしている。今後も継続して自己肯定感の向上を図ることが課題である。

また、学力・体力の向上については、学習指導の充実と健康・体力の保持増進についての指導に努めてきた。そこでは、子どもの主体性を重視した学習指導と保健指導に取り組んだ。体育を中心とした教科指導の実践的な研究、自学自習できる環境整備、手洗い・うがいなど健康的な生活習慣の確立などを進めて、自ら学ぶ力と健康な心身の育成を図った。その結果、令和3年度末児童アンケートでは「授業に集中して取り組み、分らないところは先生に質問するなどしてそのままにしない」についての肯定的な回答の割合が、全校平均84%あった。今後も、自ら学ぶ力を育成していく必要がある。また、「運動やスポーツをすることが好きですか」についての肯定的な回答が、令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では大阪市平均を男女とも下回った。今後も運動への関心を高める続けることは課題である。

そして、学びを支える教育環境の充実については、ICT機器活用の推進に努めるとともに、会議や学校行事の精選を進めてきた。そこでは、児童が主体的にタブレット端末を活用できるよう取り組むとともに、教職員の負担軽減を図った。その結果、令和3年度末児童アンケートでは「進んでタブレットを使った学習に取り組んでいる」についての肯定的な回答の割合が、全校平均91%あった。今後も、主体的にタブレット端末を活用する環境づくりを進める必要がある。また、会議や行事の精選により、教職員の時間外勤務時間は縮減されてきてはいるが、課題を残している。

#### 中期目標

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、令和3年度より5%増加させる。

##### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、35%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より5ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合

##### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 学校の年度目標

- ① 令和4年度末学校アンケート（児童対象）で「自分にはよいところがある」の項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。
- ② 令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。

#### 学校の年度目標

- ① 令和4年度末学校アンケート（児童対象）で「学習中に、自分もやればできると感じることもある」の項目で肯定的な回答の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標

- ① 令和4年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- ② ゆとりの日の設定を、月2回以上設定する。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】に関しては、指標としてあげていたアンケート等の結果が目標値を上回るもしくは概ね同等であったため、3つの取組内容全てをB評価とした。また、5つの年度目標に関しては、目標としていた数値に対して下回るものもあったが、概ね同等か上回ることができた目標もあったため、全体としてはB評価とした。いじめに対する児童のとらえ方や不登校に関しては課題があるが、今年度中に新たに不登校傾向が見られた児童に対して、チームで対応することで改善が図られ、登校できるようになったケースもあり、成果も見られた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】に関しては、指標としてあげていたアンケート結果が目標値と同等か上回ることができたため、2つの取組内容ともにB評価とした。また、5つの年度目標に関しては、目標としていた数値に対して同等か上回ることができているため、全体としてはB評価とした。全市共通目標の①③④に関しては、目標値を10%上回ることができ、成果を上げることができた。しかし、自己肯定感に関しては課題が残っているため、できていることを適切に認め、称賛することでさらに学力・体力の向上につながる児童の主体的な取組を作り上げていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】に関しては、指標としてあげていたアンケート等の結果が目標値を下回るものもあったが、改善が見られており、他の結果は同等か上回ることができていたため、2つの取組内容ともにB評価とした。また、年度目標①に関しては、目標としていた数値に対して下回りはしたが、児童の実態と教員からの聞き取りによると概ね目標を達成することができている。年度目標②に関しては、目標を達成できている。そのため、全体としてはB評価とした。学習者用端末の活用は進んでいるが、学習の中で活用する場面を充実させることが今後の課題である。ゆとりの日の設定は今年度一歩前進したが、形だけにならないよう創意工夫を重ねていき、週1回の設定ができるように取組を進めていきたい。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、手厚い取組の実施に困難さはあったが、地域・保護者の皆様のご理解・ご協力と教職員の努力によって、概ね今年度の目標を達成することができたと考える。今回の結果を受け、安全・安心面での課題が明らかになったため、今後も児童一人一人が大切にされ、安全・安心な学校を実感できる取組を継続するとともに、学びを支える教育環境の充実に向け、働き方改革に関する取組も継続し、よりよい学校運営を推進していきたい。

大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 令和4年度末学校アンケート(児童対象)で「自分にはよいところがある」の項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p> <p>② 令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を、90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校、いじめの対応を組織的に行えるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとのいじめアンケートについて「今のクラスになっていじめられている。」に「はい」と答えた児童への解消率を80%以上にする。(今年度100%)</li> <li>・不登校とみられる児童への対応について学校全体だけでなく、関係諸機関と連携を取りつつ対応した割合を80%以上にする。</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>学校・保護者・地域が連携して「仲間づくり」を中心にした国際理解教育や人権教育を推進する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解教育、人権教育の年間指導計画を作成し、保護者・地域と連携した教育活動を実践する。学校アンケート(児童対象)における「話し合う活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる。」と「いろいろな国の生活や文化を知ることが楽しい。」の項目について肯定的な回答をした児童の割合を80%以上にする。(それぞれ86%、77%)</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>にじいろ班活動やにじいろ行事を通して異学年交流を深め、子どもの心を豊かにする。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会や、にじいろ清掃、にじいろ行事を実施し、学校アンケート(児童対象)における「ちがう学年(にじいろ班)の人たちと活動することが楽しい。」の項目について肯定的な回答した児童の割合を80%以上にする。(79%)</li> </ul>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 取組内容①

学期ごとのいじめアンケートについて「今のクラスになっていじめられている。」に「はい」と答えた児童への解消率は100%と目標の80%を達成することができた。各クラスに一人は「いじめられている」と感じる児童は見られたものの、アンケート後の聞き取り調査を徹底して行うことができたため、児童が抱える問題を早急に解消することができた。不登校とみられる児童に対しては学校全体で情報を共有し、関係諸機関と連携し対応することができた。

### 取組内容②

学校HPを通して活動内容を保護者や地域に発信することができた。学校アンケート「話し合う活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる。」の肯定的回答は、86%と目標の80%を達成することができた。しかし、「いろいろな国の生活や文化を知ることが楽しい。」の肯定的回答は77%と目標の80%を達成することができなかったが、つながりのある国だけでなくいろいろな国のあいさつ活動や生活、文化に触れた取り組みを行うことができた。

### 取組内容③

にじいろオリエンテーリングやフェスティバルでは、「楽しかった。」という声が多く見られた。しかし、後期児童アンケート「ちがう学年の人たちと活動することが楽しい。」の肯定的回答は79%と目標の80%を達成することができなかった。アンケート結果を詳しく確認すると、低学年81%、中学年81%、高学年が70%と高学年が低い数値だったため、高学年が様々な活動に対して、やりがいや達成感を持つことができる取り組みを行う必要がある。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

いじめの解消状況や不登校児童の関係機関との連携状況について、全体共有していく。指標を数値化することが難しかったため、次年度は全市共通目標や学校目標を鑑み、取り組み内容を検討していく。

### 取組内容②

国際理解教育について、各学年の取り組みを見直し、韓国朝鮮だけでなく、様々な国について知ったり、体験したりする学習に取り組んでいく。また、様々な国の遊びを取り入れていくことで興味・関心を高めていく。

### 取組内容③

低学年児童が楽しんでいる姿を見て高学年が喜びを感じたり、リーダーとして活動することにやりがいを感じたりするという、だれかのために働くことは楽しいという奉仕の心を育むような活動を考える。

にじいろ清掃については、遅れずに行くことや清掃の仕方など、ルールをはっきりさせ、守っていくように指導する。清掃場所の担当者もはっきりと決め、責任をもって指導・支援していく。

大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 令和4年度末学校アンケート(児童対象)で「学習中に、自分もやればできると感じることもある」の項目で肯定的な回答の割合を80%以上にする。（今年度 79%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科・算数科を中心に習熟度別少人数指導、T.T等の指導方法を工夫して、学習内容の定着を目指し、また、自宅学習の習慣を確立できるような支援に取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケート(児童対象)の「家で決まった時間、宿題(自主学習もふくむ)に取り組んでいる。」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。（今年度 84%）</li> <li>学校アンケート(児童対象)で「話し合う活動では、自分の考えを友だちに伝えることができる。」の項目について、肯定的な回答を85%以上にする。（今年度 86%）</li> <li>学校アンケート(児童対象)で「外国語(英語)やモジュールの学習は好きだ」の項目について、肯定的な回答を80%以上にする。（今年度 82%）</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>げんきアップ週間の取り組みや外遊びの啓発、体育科学習の指導方法の工夫により、健康や運動への関心を高める。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケート(保護者対象)で「お子さんは、家族で決めた起床・就寝の時刻を守ることができている」の項目について肯定的な回答を80%以上にする。（今年度 80%）</li> <li>げんきアップ週間の振り返りで「ゲーム・動画・SNS・テレビなどの時間を守った」の項目について肯定的な回答を85%以上にする（5日間中、平均4.25日以上）（今年度 4.3日 86%）</li> <li>学校アンケート(児童対象)で「一日一回以上、運動場に出て体を動かしている」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。（今年度 85%）</li> <li>体育科実技研修を学期に1回以上設定し、指導力の向上を図る。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

(家庭学習)

児童アンケートでは目標の 90%を達成できなかったが、宿題についてはしっかりできるようになってきており、できていない児童への支援も取り組めた。

(話し合う活動)

目標の 85%を達成できており、各学年の実態に合わせた話し合い活動を取り入れてきた成果が出てきた。

(外国語)

活動でゲーム等を取り入れるなど、指導を工夫することで外国語の学習が好きだと感じる児童が増え、目標を達成できたが、学年が上がるにつれて肯定的回答が減少する傾向が見られた。

取組内容②

(起床・就寝)

保護者アンケート「起床・就寝の時刻を守ることができている」の項目については目標の 80%を達成できたが、低学年の就寝時刻やスクリーンタイムのルールが守れていない児童の割合が多かった。しかし1学期と比較すると、保護者の意識が高くなってきており良い傾向が見られた。

(ゲーム・動画・SNS)

学級での指導や保健指導、ほけんだより、学校保健委員会などの取り組みの結果、げんきアップ週間で「ゲーム・動画・SNS・テレビなどの時間を守った」の肯定的回答は後期 86%（5日間中平均 4.3日）で目標を達成できた。メディアとのかかわり方について児童が説明した学校保健委員会の取り組みは、特に効果的だった。

(運動場)

みんな遊びの設定や耐寒行事の実施などにより、後期児童アンケート「1日1回以上、運動場に出て体をうごかしている。」の肯定的回答は 85%で前期の 75.8%より高くなったが、目標を達成できなかった。学年が上がるにつれて肯定的回答が減少する傾向が見られた。

次年度への改善点

取組内容①

家庭学習については、宿題はしっかりできつつあるので、自主学習に取り組める児童を増やしていく。そのためにはこれまでの表彰だけではなく、自分の課題や学習を自由に取り組むという宿題として出すなど方法を考えていく。

話し合う活動については、相互指名もできているので次のステップに進めていく。

外国語については繰り返しの学習が多いため、児童の興味・関心を高める楽しい授業づくりを工夫していく。

取組内容②

引き続き、保健だよりやげんきアップ週間を中心にした家庭への啓発と学級での指導を進める。就寝時刻が極端に遅い児童については家庭の状況を把握し、個別指導や健康相談につなげていく。

外遊びを勧めるためのみんな遊びの設定や担任の声かけも十分行っていることから、より児童の体力向上促進のためには、児童が興味を持って取り組める新しい運動用具を購入したり、体育館を使える時間を設定したりして自発的に運動したくなるような環境整備を整える。そのためには運動場の遊ぶエリアや時間の調整をしたり、体育館での担当を明確にしたりする必要もある。



大阪市立北中道小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b> <b>全市共通目標(小学校)</b> ① 令和4年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。 ② ゆとりの日の設定を、月2回以上設定する。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① <b>【基本的な方向 6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</b> 学習者用端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を推進する。	B
指標 ・学校アンケート(児童対象)の「進んでタブレットを使った学習に取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。(今年度79%)	
取組内容② <b>【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> 教職員間の情報交換・コミュニケーションの充実を図り、協働的に業務に取り組める環境づくりを推進する。	B
指標 ・ゆとりの日に18時までに退勤する教職員を90%以上にする。 ・教員の時間外勤務時間の1か月平均を30時間以下にする。	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 取組内容①

後期児童アンケート「進んでタブレットを使った学習に取り組んでいる。」の肯定的回答は79%と目標の80%を達成できなかった。各学年の実態や学習内容に合わせ、ICT支援員のサポートも活用しながら、タブレットを活用して調べ学習やデジタルドリルに取り組むことができた。

### 取組内容②

ゆとりの日だけでなく日常的に以前よりも18時までに退勤する職員の割合が増えた。教員の時間外勤務時間は1か月平均30時間以下となり目標を達成できた。しかし病休・中途退職者の補欠がすぐに得られず、そのため一部の教員に負担がかかり、業務量の差も見られた。

## 次年度への改善点

### 取組内容①

引き続き各学年の実態に合わせて計画的にタブレットの活用を進めていく。低学年が教科学習する際のタブレット活用が難しいため、具体的な方法をICT支援員の方に教えてもらいながら、活用できるように努める。また、担任により習得内容にばらつきがでないように、系統的に何年生では何を習得できるようにするかを明確にする。併せて指導者の操作技能を高める研修を進めていく必要がある。

### 取組内容②

年間行事や現在取り組んでいる活動内容の検討をし、継続するか削減、内容の縮小等の見直しを行っていく。

職員個々のコミュニケーションは取れているが、職員全体で必要な情報が共有できていないこともあったため、適切に情報を伝達し、補欠が必要な場合は役割を明確にするなど、協働的に業務に取り組める体制を速やかに整える。

計画的に業務が進められるように予定の直前の変更や追加を減らし、やむなく変更する場合は必ず連絡掲示板などで周知し、関係職員にはだちに連絡・確認をする。

業務の効率化を図るためには、具体的な案を出して取り組んでいく必要がある。例えば、「担任外の学年付きを明確にして学年の業務を依頼しやすくする」「廊下階段の掲示板の割り当てに委員会・クラブを増やす」「PC内やデジカメ内のデータの移動や削除は担当者が行う」など。